

# 4

---

全国レディース中央会  
リレーインタビュー

## 松野 ミツ

青森県中小企業団体中央会  
レディース会 会長

良成良（ラッセラ）の生き方、  
志を高く持って姿勢は低く



### 良成良（ラッセラ）が原点

私自身にあだ名をつけるならば「ラッセラの女」です。青森ねぶた祭の掛け声「ラッセラ」は、古文書によりますと「ラ」が優良可の「良」、「セ」は成功の「成」、もうひとつ「良」で「良成良」と言われております。これは「願いが叶う」という意味です。私の人生は「ラッセラ」で歩んできたと感じております。

中学生のときに、病院の栄養士は食べ物で病気を治せると聞き、医者にはなれないけれどその栄養士を志して短大に進学しました。

在学中、九州一周旅行をした時「太宰治のふるさ

とから来ました」と自己紹介すると「『津軽』を読んだことがあります」などと旅先で出会った人々に言われましたが、当時の私は『走れメロス』しか読んでおらず、恥ずかしい思いもあり、帰ってきてから太宰全集を熟読しました。

その後、地元の公立金木病院で栄養士として4年半勤務しました。太宰治の次兄（津島英治氏）が晩年、その病院の事務長をされており、私は部下でした。

病院の栄養士をして気がついたことは、病院からめでたく退院できる人が少ないということです。残念ながらお亡くなりになる人も多く、私は24歳にして、人生はあっという間に終わるものと悟りました。そして、生

きているうちにいろんなことに挑戦しなければと決心し、53年前、当時はまだサプリメントや健康食品という言葉が無かった時代でしたが、フランチャイズで青森県の販売権利を取得してこれらの卸売販売業を始めました。

それから10年後、新たにバンケット、所謂パーティーコンパニオンの事業を始めようとしたら、なぜ人にお酒をつぐような仕事をするのかと親族から反対されました。しかし私は、ラッセラ（願いが叶う、すなわち為せば成る）の女ですから、この素晴らしい仕事をやらないわけにはいかないと事業を始めて今年で43年になります。

## 志高く、姿勢低く

人に接する姿勢として、かつての上司である津島氏から学んだことがあります。津島兄弟と言えば、長兄は民選による初代県知事、次兄が旧金木町の町長、そして太宰治ですから「偉い兄弟ですね」と申し上げると「偉いか偉くないかは、自分が決めちゃだめなんだよ。それは相手が決めることなのだから、自分で自分を偉いと思うほど滑稽なことはないよね」と教わりました。それから私は常にその尺度を持ち、どのような方にお会いしても、臆することなく接することができております。

バンケットでは、宮内庁の仕事も16回ほど担当させていただきました。中でも最も光栄なお仕事は、上皇皇后両陛下のアテンドをさせていただいたことです。また、大臣などの要人がおいでになるときは、青森県や市から依頼を受けて私にお任せいただくことが多くありました。

その中で学ばせていただいたことは、自分に自信と誇りを持っている人はやさしいということです。サービス業をしているとよくわかりますが、自分に自信がない人は、些細なことでも怒ります。それでもその人を拒むことはせず、申し訳ございませんと態度や言葉に表します。志を高く持って姿勢は低く、心の中で気持ちを整理するのです。



▲(有)百歳の青春〈左〉とブルーアップル(バンケット事業部)〈右〉の経営理念

## 人生は一度きり

経営者であれば皆、順風満帆な人生はないと思います。私も健康食品を世の中に拡めるという意気込みでやって参りましたが、いろんな壁にぶつかっております。

これ以上は太刀打ちできないと思ったときは、病床の患者さんを思い出します。亡くなっていった患者さんに比べたら、私の苦勞など苦勞のうちに入らないと、故人を敬いながら自分の心の支えにしてこれまで生きて参りました。

時間は有限なので、自分で決めたことは次々と実行するようにしております。最初に起業した健康食品の卸売販売の社名は、100歳まで健康で元気にという思いを込めて「百歳の青春」としました。私は起業してから1度だけ風邪をひきましたが、その後は元気ハツラツでロスタイムなく忙しくしております。

人生は一度しかないのですから「反省はしても後悔のない人生を歩む」が座右の銘です。今やるべきことを今やる、そして感謝の日々を一生懸命生きる、それが私の生き方でございます。

## Profile

### 松野 ミツ

全国レディース中央会 副会長  
青森県中小企業団体中央会レディース会 会長  
有限会社 百歳の青春 ブルーアップル 代表取締役

## 大場 和子

あいち女性中央会  
会長

おかげ様を忘れずに



私は臨床検査技術を学び、衛生検査技師資格を得ました。卒後は、病院か衛生行政でしたが広く公衆衛生分野を目指し行政を選択した結果、地方公務員として働く機会を得ました。

1969年から保健所に勤務しました。1970年の公害国会で環境省が設立され、環境規制が強力に進められました。1971年土建会社を経営していた父に環境分析会社を設立してもらい、保健所を退職してその事業を担当することになりました。

設立当初は、愛知県三河地域の工場から汚濁物質を測定する仕事の依頼をいただき、設立から5年後の1976年には、水質検査事業は法令にもとづく

環境計量証明業の認可を得ました。

その後、作業環境測定の労働局登録機関として、労働衛生に係る測定、建築物衛生管理の衛生維持管理登録事業者として飲料水、空気環境、貯水槽清掃、食品検査などの分野にも拡大し、現在は、輸入食品検査、新型コロナウイルス感染症のPCR検査など、衛生分野へも登録検査事業を拡大しています。

創業以来、信頼を戴ける大切なお客様が東海分析を支えてくれたと思っています。

**人を大事にする。仕事に対して、感謝をされるような分析屋になりたい**といつも思っています。

私達は、検査報告書というペーパーだけが商品で

技術品質の中身が見えにくいです。

だからこそ、**正確性と信頼性を重視して、スピーディーに対応する**ここなら安心して仕事を委託できると言っていただけることを常に心がけるようにしています。

医療関係事業を通じて、専門技術会社として**品質の確保にとどまらず業務全体のサービスを重視する姿勢が必要**と強く感じます。

50年の間に測定単位も変化し、100万分の1レベルが大半だったものが、今では1兆分の1レベルの極微細なものも検出しなければなりません。検査機器は高額なものが多いですが、政府、自治体の補助金制度を活用させていただきつつ、常に最新の設備整備を進め、オペレーターの育成にも努めています。

ただ、いまは人材不足です。我々中小企業からは大企業に転職者が多くそれが少し残念に思います。女性が活躍できる機会も多い業種でもありますが、人

▼アスベスト分析の様子



材の安定化、活性化の為人材確保、育成には視点改革が必要です。

創業50年、私も長男に社長を譲りましたので、なんとか若い世代で新しい空気をつくり、頑張っていただけたらと思ってます。**私はあらゆる方に助けて頂き今やっておりますので、皆さんとの出会い、やはり大事にしたい**と思っております。今後ともよろしく願いいたします。



▲安全な水道水の提供に貢献しています

## Profile

### 大場 和子

あいち女性中央会 会長  
愛知県中小企業団体中央会 常任理事  
株式会社東海分析化学研究所 代表取締役会長



CASE

03

## 宮川 富子

しが中小企業女性中央会  
会長

ご縁を大切に

私が経営しております株式会社永樂屋は文政三年（1820年）の創業以来、二百余年にわたって彦根仏壇の製造販売一筋に今日まで励んでまいりました。

経済産業大臣指定伝統工芸品である彦根仏壇は漆塗り・金箔・蒔絵・宮殿・飾り金具などによって造られており、日本の伝統文化の美の結集といっても過言ではなく、そうした美の伝統技法によって造られたお仏壇は、ご家族の心を継ぐ結び目として、各ご家庭で末長くご安置していただいております。お家の中心として長きにわたって大切にさせていただくお仏壇を造り続けることに、感謝と誇りを持ち、弊社のスローガンであります“かぎりなく豊かな心”をモットーに

一作一作合掌の心で造り続けております。

彦根で生まれ彦根で育って22歳で主人のもとに嫁いだ時には、祖父母 両親 弟 妹 住み込みの職人 見習い含めて通いの従業員さん20人という大家族。未熟な私が今日までこられたのはいろんな方々の支えとご指導があったお陰です。ご縁あって「しが中小企業女性中央会」の立ち上げから参加し、女性経営者という企業トップの先輩方と出会い人生観が変わりました。

しが中小企業女性中央会の目的にもありますとおり、女性のしたたかでしなやかな感性を活かした経営革新、自己研鑽などによる地域社会の発展を念頭に、

さらなる女性活躍の場を創出できるよう、日々活動しております。

具体的な取組みとして、①女性の積極登用、②リフレッシュ休暇・時間帯有給取得・育児社員短期間勤務制度の採用、③リモートワーク（オンライン接客）・臨時託児所の社内併設などによる現場での働きやすい環境の実現、などを継続しておこなってまいりました。これからも会社を取り巻く皆さまに感謝の心を忘れず、前に進んでまいります。

続きまして、私が会長を務めさせていただいております「しが中小企業女性中央会」の取組みをご紹介します。平成13年11月に設立し現在まで、企業経営や組合活動に携わる女性の交流と連携を促進し、女性のしたたかでしなやかな感性を活かした経営革新、自己研鑽、新しい産業の創出を図り、もって地域社会・本県経済の発展に寄与することを目的に活動を進めてきました。

主な活動としましては、①会員相互の情報交換、ネットワークの構築、②会員の交流促進、③研修会並びに講習会等の開催などを通じ、女性経営者・役職員としての資質向上と、滋賀県内から近畿、そして全国へ広がる「女性中央会ネットワーク」の強化を目指し、精力的に活動しております。研修会「しなや華塾」（年2回）、「新春セミナー」（年1回）、「近畿ブロック交流会」・「全国フォーラム」、「女性活躍推進課や知事との懇談」などをおこなっております。

「しなや華塾」では、県内や県外の協同組合、会員企業、特色ある活動をおこなう県内団体や大学の視察、その時々トレンドに合わせた勉強会などを企画し、最新情報の共有やネットワーク構築を継続



▲甲賀市頓宮大茶園 視察

的におこなっております。これまでも会員企業の視察や、琵琶湖に浮かぶ沖島の視察など、持続可能なビジネスモデルについての研修会を開催しました。また、SDGs・MLGsの勉強会、地域の魅力を知る機会や地場産業への理解を深められる内容の研修もおこなってきました。



▲持続可能なビジネスモデルについて 勉強会

「新春セミナー」では、世の中のトレンドや新春にあったテーマでその道のプロの方々よりお話をいただき、自己研鑽できる環境を整えるとともに、会員の交流促進を進めております。

活動をするうえで、琵琶湖を真中にした地形で県内全域に会員がいるため開催場所の配慮が必要であったり、意見の完全一致が難しくなるなどの課題はありますが、**県内の多種多様な企業の女性経営者と集い交流することができること、また、地域外の異業種間交流となるため視点や情報の幅が広いことなど、メリットのほうが大きく、非常に有意義な取組みとなっております。**

最後に私には3人の娘がおります。その娘達は結婚し、可愛い孫にも恵まれました。この孫の将来のためにも安泰な社会であることを念じて、“**今私たちがしなければならないことは何か**”をより真剣に考え、これからも活動していきたいと思っております。

## Profile

### 宮川 富子

しが中小企業女性中央会 会長  
全国レディース中央会 副会長  
株式会社永楽屋 代表取締役社長



## 栗屋 しのぶ

大分県中小企業団体中央会  
女性部会 会長

年齢の壁をつくらず、  
コロナ禍を乗り越える

私の会社は旅行業をしておりますので、このコロナ禍で大きな影響を受けました。

卒業後1年も働かないうちに結婚し、ずっと専業主婦をしていました。二人の子ども達が小学校に入り、自由時間ができて読書三昧していた時、本屋さんでたまたま手をとったのが旅行業務取扱管理者の参考書でした。働くつもりで資格試験の本を手にした訳ではなく、内容が海外旅行に関していて興味のある分野だったので、試験を受けてみたのが始まりです。

各旅行会社には営業所ごとに必ず有資格者が必要で、ちょうどバブル期に入る頃で、儲かってる会社が税金対策もあり旅行業に進出するのが多い時期でし

た。そのため、旅行業協会を通じて資格取得した私のところにもオファーがたくさん来ました。それで旅行業界に足を踏み入れる事になりました。

数年後、働いていた会社の本業不振のため旅行業部門はやめるという話が出ました。そうするとJTBや航空会社の方から、もったいないから自分でやればと言われたのが創業するきっかけです。なので、経営に関して勉強したり、起業したいという志もないままスタートしてしまいました。創業後は中央会にお世話になりながら、ただひたすら日々の業務をこなしていくような生活でした。

現在、資格をとってから30年になります。起業し

て22年。渡航回数はおそらく400から500の間くらいだと思います。コロナ前は、レディース中央会の総会や会議にもスーツケースを持ってきて、終わってから成田に向かって飛び立つみたいなパターンでした。新型コロナウイルス発生後は、そういう生活から一変し、とまどう毎日でした。

私は旅行業のなかでもクルーズが好きです。海外添乗業務はハードなものですから、その中でも比較的、体力的にも余裕のある海外クルーズ添乗にシフトチェンジして、ちょうど2年ぐらいたったところでした。毎月のように大きなクルーズ船に乗っていた中で、イタリア人のミュージシャン達と集まってよくおしゃべりしていました。私はその時に五十代後半でした。「もう自分は年だから。」というような発言をしたら、「なに言っているの？今からでしょ？」と。「今からだなんて、日本ではもうおばあちゃん扱いされる年齢で、女性としては終わってるわね。」と軽口で答えました。ジョークが返ってくるかと思ったら、真面目顔で「自分で年齢の壁を作って、その壁の後ろに隠れるような発言をしてはいけない。」「あなたの知識と経験があなたを素敵に見せているのに、壁に隠れてどうするの？」「これまでの積み重ねを活かさずに年齢だけを理由に仕事をやめたら、日本の経済は衰退していくでしょう？」と次々に意見されました。いつも世界中を飛んでアメリカから帰って1週間もたたずにヨーロッパに飛

び立つような生活していて、自分ではグローバルな感覚を持っていたつもりでいたのに、日本人感覚ですね、自分の中にも60歳を越えたら引退するイメージを持っていました。

そして、ちょうど同時期に吉田会長と初めてお会いしました。吉田会長が「なーに言っているの、しのぶちゃん。女はね、今は昔と比べたらマイナス10歳よ。これから先はマイナス15歳ぐらいね。」とあっさり言われて。吉田会長は、私よりずっとグローバルな感覚をお持ちで、すっかりファンになってしまいました。

その言葉が耳に残っていたので、コロナ禍で売上は9割減になり、社員も整理せざるを得ないし、先は全然見えないし、という時でも、諦めるのはいつでも出来る、もうちょっと頑張ろうと思うことができました。

旅行業の他には、イベントチケット販売や出演者のアテンドなどの業務をやっています。一流選手やアーティストの方と接する機会もありました。特に印象深かったのは、自分よりはるかに若い羽生選手でした。

アイスショーが終わって疲れ果てている時にも、スタッフへの配慮を忘れず、ファンへ感謝の気持ちをもって丁寧に対応する姿に、こんな彼だからこそ、チャンピオンになれるのだと心打たれました。そういうチャンスも、仕事をしているからこそあったことなので、まだ楽しみながら働いて、コロナ禍の損失を取り戻していきたいと思います。



◀ オフィス内/ネットワークシステムを構築し、顧客管理や帳票類作成、予約手配に活用している

## Profile

### 栗屋しのぶ

大分県中小企業団体中央会女性部会 会長  
大分県中小企業団体中央会 副会長  
企業組合オフィスケイ 代表理事

## 吉田 陽子

宮崎県レディース中央会  
会長配偶者と2人3脚で  
日本を代表する木材会社へ

私は、地元の高校を卒業後、大阪の阪急百貨店、その後転職して、川崎製鉄株式会社に勤務しておりました。たまたま夏休みに実家に帰ったところ、突然結婚の話が浮上し、主人のことは元々知っていたのですが、まだ私はそのとき20歳だったので流石にびっくりしたことを覚えています。お互い結婚という段階では全くない状況でしたが、主人の父が71歳で余命1年もないという状況の中で私と会い、息子と結婚して一緒に会社をやってくれないかということでした。でもその会社というのは、常勤が3人、臨時が2人の計5人でなんとか経営が成り立っているような会社で、私の家族や親戚は大反対でした。でも、必要とされている

ことにかえって私は役に立ちたいという思いが強まり、結婚を決めました。

主人の父は、元陸軍大佐で、戦後東京から追放で故郷の宮崎に帰ってきて、小さな製材工場を創業し、一時的には50人の従業員を抱える大きな工場に成長した時期もあったそうです。しかし、従業員の裏切りにより経営が悪化し、事業縮小せざるを得ない状況になりました。このようなこともあり、人に対する不信感を持つようになった主人の父でしたが、結婚後、私が従業員として経営に携わることになり、安心したようです。

主人の母は、東京文化服装学院を卒業し、高島

屋のデザイナーをしていたという素晴らしい人で、今でいうキャリアウーマンの走りだったようですが、田舎に帰ってきてからは、慣れない仕事に苦労しながら父を支えていたようです。

結婚のときに、既に戦死して父がいない私に、主人の父が言った言葉が、「今日から私をお父さんと思って甘えなさい。そして常に息子と二人で考え頑張るように。」でした。それからずっと**何事にも主人と二人で考え、相談して取り組んできました**。だから我が家は、いまの男女共同参画の走りにあたると思います。

ただパートナーであった主人が41歳のときに癌を患い、余命1年と宣告されました。その時、何かやりがいのある仕事をする事で主人に少しでも生きる気力をもってもらいたいという思いで、大きな工場の建設を計画しました。それが当初1億円の予定が13億円もの規模になってしまい、とても大変でしたが、従業員一同一丸となり、この難局を乗り切り、余命1年と宣告された主人ですが50歳まで存命することができました。

その後も3人の子育てをしながら仕事に懸命に取り組みました。そのような中、医者道を志し医学部に入学していた長男でしたが、自分の夢を諦め退学し、会社を引き継ぐことを決心し、会社経営に協力してくれるようになりました。また、従業員や関係者の皆様のご協力もあり、いまでは、グループ全体で200人余りの従業員を抱える会社に成長しました。

私の宮崎県レディース中央会活動の原点は、経営をしながら社会活動の一環として、ロータリーやソロプチミスト、警察協議会、防衛協会女性部会など、様々な団体に加入し活動を始めたことです。そのなかで知り合った先輩の一人が、宮崎県レディース中央会の二代目会長の森龍子さんでした。その方から「陽子ちゃん、一緒に活動しようよ。」と勧めていただき、入会しました。入会当初は、会の知識が殆どない状態でしたが、17年経った現在に至っては、宮崎県レディース中央会と全国レディース中央会の会長として、活動する毎日となっています。

森前会長からは「私は仕事を辞めても、このレディース中央会だけは辞めないのよ。」と言われました。その言葉のように、私自身も大好きな**レディース中央会**は、**自己研鑽できる場**だと思います。これからも、全国各地の皆さんと異業種交流をしながら成長できると考えております。



▲吉田産業株式会社（空撮写真）



▲吉田産業株式会社（工場全体配置図）

## Profile

### 吉田 陽子

全国レディース中央会 会長  
宮崎県レディース中央会 会長  
宮崎県中小企業団体中央会 副会長  
吉田産業株式会社 相談役

4 全国レディース中央会 リレーインタビュー

部会会長  
会議



フォーラム

交流懇親会

